

全国統一要求（抜粋）

1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

第23回全国ダンプ部会定期総会 全国から21組織32名が参加

総決起
単価闘争を推進しよう
共に闘う仲間を増やそう
全国ダンプ

全国ダンプ部会は、1月28日（日）～29日（月）に東京都内で第23回定期総会を開き、全国から21組織32名が参加しました。
総会では、ダンプの低単価・労働条件の改善をすすめる経済闘争を各地で果敢に取り組み、過積載根絶・交通安全の実現と結び付けた要求闘争を

総会の開会あいさつで森谷稔部会長は「設計労務単価の引き上げは続いており、ダンプの単価改善に向けた追い風はあります。しかし、自力を出さなければ、この条件を活かすことはできません。本会議の中で全国の教訓を学び、自らの組織活動に活かしましょう」と訴えました。
廣瀬肇事務局長が「経過報

告と運動方針案」等を提案しました。また山内健人副部会長から「新年度の確定申告の改正点及び売上（預り金）の計上の仕方」について説明をしました。2日目は、国土交通省の「施工パッケージ型積算方式」についての出前講座をおこない、常用単価の積算方式について学習しました。

イアアップした拡大行動を展開した。引き続き拡大で奮闘する（岩手）「合材職場の分会で燃料高騰対策としてサーチャージ制度を元請・下請に認めさせた」（埼玉南部）、「仕事が少ない地域であるが、使用促進闘争を展開している」（東海）、「那覇空港建設工事8工区で二、五八三台が適正



組織拡大で表彰された5組織（左から北陸、栃木、沖縄、岩手、福島）（1月29日東京都内）



税金相談会に参加した東海ダンプ支部の仲間たち（2月11日）

単価で就労した（沖縄）など、2日間で延べ24名が発言しました。議案等採択、新役員体制の選出後、「組織拡大表彰」（岩手、福島、栃木、北陸、沖縄）をおこない、団結がんばろうで総会を終えました。

役員体制
部会長 森谷稔（福島）、

副部会長 山内健人（栃木）、横坂英治（群馬）、事務局 廣瀬肇（中央）
全国幹事 昆茂太郎（岩手）、高橋英晴（神奈川）、矢野卓哉（埼玉）、久保浩美（北陸）、今村信義（兵庫）、丸岡昭（徳島）、宮間鉄平（沖縄）
監査 高橋立顯（東海）

確定申告
仲間を誘って税金相談会へ
署名・アンケートに協力を

今年も各支部で「税金相談会」を実施します。すでに「自主計算書」を郵送等で自宅に

送っています。組合では、諸経費の計算や記入の仕方などをアドバイスします。

次の物を用意して下さい。
① 昨年1年間の売上額、掛かった諸経費（ダンプ・乗用車ローン、燃料代・タイヤ・修理代等）② 国民年金、生命保険（介護医療用も含む）、地震保険の支払い証明書、③ 奥さんや同居家族が働いている場合の正確な収入額、④ 本人、同居家族の医療費（今年度から領収書の提出不要・医療費控除の明細書にまとめる事）、などです。平成27年分の売上げが1千万円を超えている方は消費税を申告する必要があります。未加入の仲間を誘って相談会に参加しましょう。
国土交通大臣宛の署名にも取り組みます。また、ダンプ要求アンケートも実施していきます。ダンプの要求実現に向けて、全国各地で積極的に取り組みましょう。

第8回全国ダンプ交流集会 =各地の取り組み報告③=

秋田ダンプ

会社の不法行為に負けず 闘って和解を勝ち取る

山中重晴さん



私が受けた不当労働行為に
対する対処と闘いについて発
言します。二〇一四年四月四
日にダンプ運転手の組合結成
をして職場公然化を行いました
たが当日から大荒れでした。
専従者の田中さんも同行した
のですが、会社側の役員が事
務所に入るなり不法侵入だと
言い始め田中さんを一方的に
追い出して、残った運転手た
ちに「恫喝、脅迫」等の暴言

を發しました。
翌日、会社の取締役から委
員長、副委員長で話したいと
言われ、内容をICレコーダ
ーで録音してもらいました。
前日同様に組合への誹謗中傷
や恫喝、脅迫をすべて録音し
ました。これが最終的には証
人尋問で役立ちました。その
後4月19日が団交でしたが、
2週間の間に委員長が会社の
方に懐柔され、会社側は組合
を認めないと一方的に賃金下
げると脅し、結局脱退してし
まいました。

私に対しては団交の2日後、
すぐ定年退職だから臨時のア
ルバイトにするという書類が
届きました。会社は定年が60
才だと言っていますが、就業
規則の周知もないし、入った
時には60才を過ぎていました
ので会社の言うことは納得い
かないと一切拒否しました。
5月1日から、今度は肉体的
な嫌がらせが始まりました。
現場の「土のう」を千袋詰め
るように指示がされました。
作業が終わるとまた千袋です。
そして私が土のうを1人で
詰めているところを、辞めた
ダンプの運転手さんが通って
歩くわけです。会社としては、
変なことをすれば、こういう
ことをすれば嫌がらせで自分
たちもやられると思いい、運

手さんは黙ったわけです。
私は辞める意思ありません
でしたから、めげずにやって
いたら今度は「仕事がなくな
ったから、休んでくれ」と言
われ、「仕事があつたら電話す
る」と言いましたが、会社の
方では「無断欠勤だ」と始ま
りしたが、毎日、会社に行き
ました。会社は警察に電話し
て、「山中という人間が毎日、
会社に嫌がらせに来るので来
ないように言ってくれ」と。
警察から電話が来て、「山中さ
ん、何故そんな会社に嫌がら
せるのですか」と。私は「何
を言っているのですか、私は
まだ社員ですよ」。それで警察
に今までの経緯を全部話した

ら、警察官の方は「個人的な
意見ですけども、ブラック企
業ですね」と話しました。
翌日会社にいくと今度は鍵
を内側から閉められました。
そして5月20日には「整理
解雇」を告げられ、すぐ裁判
所の方に申し立てると、整理
解雇は撤回されましたが今度
夏場なので草刈りです。7月
1日から11月頃まで毎日、草
刈りをやりました。その間、
労働委員会の方にも不当労働
行為の訴えを起こして受理さ
れています。さらに時間外手
当の問題もありましたので労
働審判も起こしました。(後に
本訴へ切り替える)約1年間に
労働委員会の審問等が続いて

いましたが、会社とのやりと
り、電話での話は全部録音し
ていたので、最終的に地
労委の証人尋問の時に本当に
助かりました。労働委員会
は、こちらの主張が全面的に
認められて、二〇一五年五月
26日和解しました。さらに私
の処遇措置と社長からの謝罪
文など、すべてを取りました。
地裁では労働委員会決定を
見て、未払い残業代、賃金は
以前の3倍の条件で会社と和
解しました。この結果を見て、
やめた運転手さんも戻ってき
てくれました。まだ会社との
関係改善は実現できていませ
ん。引き続きご協力をお願い
したいと思えます。(拍手)

埼玉ダンプ南部

5つの合材職場で公然化 福利厚生等の拡充を実現

木村秀一さん



合材で働くダンプ仲間の多
くは、各プラントに専属代車
として働いていることが多い
です。埼玉南部で公然化して
いる5つの分会も、すべて専
属車です。私たちは、この職
場組織の闘いに長年力を入れ
て取り組んできました。

長いたたかひの中で、プラ
ントからの弾圧や配車差別の
不法行為もありました。「前田
道路朝霞分会」では、結成を

きっかけに別の下請会社が設
立され、組合員に配車しない
暴挙を受けました。組合は不
当労働行為と位置づけ、前田
道路や下請を相手とした闘争
を続け、今まで拒否され続け
てきた仕事も少しずつですが、
できるようになっていきます。

今年4月、下請指導ガイド
ラインが施行され、建設労働
者の社会保障問題が大きく取
り上げられるようになりまし
た。支部では、労働者性の強
い合材職場の要求として、「特
別労災の保険料」をプラント
負担することを目指しました。
当初、各プラントともに難色
を示しましたが、労働者性の

再確認や建設業界全体の流れ
を事細かに説明し、交渉を重
ねてきました。大成ロテック
浦和分会」では数回の交渉の
末、労災保険等の半額負担を
勝ち取ることができました。
この合意をきっかけに、複数
のプラントで合意がされ、一
番高い所では年間6万四、八
〇〇円の保険料を負担させる
など、運動は広がっています。
プラントで働く仲間は毎年、
春闘で単価交渉も行っていま
す。15年ほど前に原油価格が
高騰による、軽油価格の値上
げを理由に単価引き上げを勝
ち取りましたが、原油価格が
落ち着くと単価が引き下げら

れる事例も生まれました。こ
れを教訓として、現在は単価
の引き上げに軽油高騰は含み
ません。また、原油価格に影
響されない単価の安定を図る
ことを目的とした、燃料サー
チャージ制の交渉も行ってい
ます。これが実現すれば、軽
油価格が高くなっても、その
分、プラントが負担すること
によって所得の増減はなくな
り、安定収入にもつながりま
す。全国交流集会に参加の皆
さん、合材職場の闘いは、全
国に工場を持つ道路会社、合
材業界全体との闘いでもあり
ます。ぜひ各プラントで働い
ている仲間へ声をかけていた
だき、合材の闘いを全国的に
広げていくように協力をお
願いします。これからも仲間
の知恵と力を集結し、闘いを
続けることを宣言して埼玉南
部の報告を終わります。(拍手)

この闘いは二〇一三年6月
からスタートして、今年で4
年目になります。この間、過
積載問題で「国や県、県議会、
生コン業界、建設業界」に繰
り返し要請を行いました。そ
の結果、各団体が協力して関
係団体に働きかけ、県が初め
て関係者団体の会議を開催し
ました。当初積載量は17・18
トンありましたが、13トンま

沖縄ダンプ

過積載根絶・単価改善 最後まで闘う事を決意

又吉和一さん



山城生コンにおける過積載
の根絶と単価改善の闘いにつ
いて報告します。これまで、
全国の建交労の皆さんと全国
ダンプからの応援、本当にあ
りがとうございました。

闘いは4年間になりますが、
沖縄タイムスが、どこまで追
い込むのか記事に取り上げて
おり、過積載についてはみん
ながんばっています。

で一時減少しました。しかし、
しばらくするとトレーラーダ
ンプの導入が増え、単価の改
善が無いためにトレーラーダ
ンプによる過積載がすくなく
なっています。

山城生コンの現状は、団体
交渉を繰り返している中で単価
についてはトン二〇〇円上が
り、トン千円だったのが一、
二〇〇円まではどうにか改善
させました。しかし定積積み
なので、一回一二、六〇〇円
にしかありません。単価は上
がりましたが、運搬回数が1
日に2回から3回あったのを
週に2回から3回に減らされ、
トレーラーダンプが毎日2回
から3回運行するようになり
ました。